

平成26年度 胎内市音楽部 活動報告

部長 渡邊 牧子

1 研究主題

音楽の専門的な知識や技術、指導力の向上を目指して～楽しい音楽活動の工夫～

2 研究の概要

(1) 第1回部会 「活動計画立案」 会場 築地小学校 15:30～参加者10人

(2) 第2回部会 「授業研究会指導案検討会」 会場 築地小学校 9:30～参加者9人

①指導者 鴻島 亜希子 (村上市立小川小学校)

②概略 第3回部会の授業案検討会の後、鴻島先生よりリズム遊びの実習、音色に着目した鑑賞活動の工夫について、ご指導をいただいた。

(3) 第3回部会 「授業研究会」 会場 きのと小学校 14:00～参加者10人

①授業者 松本 圭 (きのと小学校)

②指導者 鴻島 亜希子 (村上市立小川小学校)

③題材名 「いろいろなおとに したしもう」

④ねらい

○「シンコペーテッドクロック」の中で用いられているウッドブロックの音色から、想像したことや感じ取ったりしたことを言葉で表し、その音色の特徴を聴き取ることができる。

⑤協議会の記録

- ・鑑賞と音楽表現の活動が関連付けられている。
- ・言語活動を取り入れ、子どもたちの考えを共有できるように、工夫されている。
- ・ウッドブロックの音に合わせて首を振ったり、指を動かしたりする動作化は、曲を想像したり感じ取ったりし、言語化する上でとても大切である。
- ・音色を言葉に表し、その根拠を述べさせることは大切である。曲の中のウッドブロックの音色にもっと浸らせるとよかった。そうすることで、曲想にふさわしい「ウッドブロックって、こんな音」と、言語化ができるのではないかな。
- ・学校での「鑑賞」は「音楽鑑賞教育」である。子どもたちに聴き取らせる内容がなくてはならないと、筑波大学附属小学校 中島 寿先生が述べている。今回の授業を受けて、「音色」学習を積み重ねていかなければならないと思う。
- ・ねらいは一つの活動に一つがよい。そして、子どもたちにとって分かりやすいねらい、発言・指示がよい。「ウッドブロックの音が聞こえたら手を挙げましょう」といった具合にし、全員がねらいを達成（聴き取れた、感じ取れた）できたら、次の活動へ進むようにする。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・講師の鴻島先生から、実技を受け、また、指導案検討会でもご指導いただき、貴重な研修の機会となった。
- ・授業研究を行ったことで、部員全員に確かな学びがあり、一人一人の授業実践に生かしていこうと気持ちを新たにすることができた。



(2) 課題

- ・子どもに音楽を好きにさせることが私たちの仕事と考える。「わかった」「聴き取れた」「この音色好きだな」「この曲のここがおもしろいから好き」などといったように、学習を積み重ねて、「音楽が好き！」と言える子に育てることが大切である。
- ・鑑賞は音が命である。出てきた音そのものが教材となる。子どもたちに聞かせる前に、必ず音のチェックをする。スピーカーの位置、高さ、機械が子どもたちから見てどこにあるか、ボリューム、フェードアウトの仕方などを事前に確かめることも大切である。